



全校代表委員会

昨日27日(月)代表委員会が行われました。代表委員会は、4年生以上の学級の代表、各委員会の代表、企画委員会によって組織します。また、必要に応じて各クラブの代表やたてわり班の代表等の参加も考えられます。昨年度から、代表委員会は年に一度、場所を児童会室から体育館に移して、代表委員会に参加する子供以外は、体育館のフロアーに座って全校児童参加型の代表委員会にしています。「たてわりイベントパート2をしよう」という議題で、たてわり班で遊ぶ内容を話し合いました。提案理由の中には、たてわり班で「助け合う遊び」や「たてわり班のよさが生かせる遊び」という言葉があり、その提案理由を意識しながら意見を出し合っていました。「『フラフープ送り』がいいと思います。体の大きさが違うからこそ、たてわり班のよさが生かせると思うからです。」「『の』の字探しリレーがいいと思います。1年生が分からないときは、高学年が教え合って助け合うことができるからです。」など、提案理由を意識しながら活発な意見を述べていました。



そして、賛成意見が多かった、「借り物競争」「『の』の字探しリレー」「フラフープ送り」「間違い探し」「二人三脚」がノミネート(最終候補種目)され、たてわり班ごとに、どの種目に賛成かを話し合いました。そして、学年代表・各委員長・たてわり班長による多数決が行われ、「『の』の字探しリレー」「フラフープ送り」「二人三脚」を2月26日(水)の拡大版たてわり班遊びの日に行うことになりました。全員が参加し、自分たちの遊びを決めることは、子供たちが学校を創っていく象徴的な行為だと思います。また一つ帯西が「わくわく」に近づいたと実感することができました。

担当の大山先生も「全校のみんなが、『たてわり班遊び』のために話し合い、みんなで決めたことを実行することで、児童会目標の「共にはげまし合い」に近付き、学校生活がより『わくわく』していくと思います。」と述べています、このように、子供たちの活躍と子供たちの創造力によって、学校文化は創られていくのです。

くまもと・子どもの美術展

本日1月28日(火)~2月2日(日)まで、熊本県立美術館分館にて、「くまもと・子どもの美術展」が開催されています。この美術展は、熊本県図画工作・美術教育研究会の主催で行われます。

この展覧会での展示作品は、授業の中で制作した作品の中から選ばれた学校や地域代表の作品です。それが熊本県内から選ばれ、子供たちの個性、そして地域性も現れており、力作揃いです。

本校からは、6年生の林田康成さん、岩永莉奈さん、井上愛理沙さんの作品が代表として出品されています。様々な芸術作品に触れることは、子供の脳を刺激し、創造力を育む効果が期待できるといいます。美術館に足を運び、創作物に触れてみるいい機会になるかもしれませんね。

